



## トピックス

- 有機農業の意味
- 有機栽培指針 病虫害5%
- 2009年度の活動報告

[www.ofrc.net](http://www.ofrc.net)

特定非営利活動法人  
有機農業技術会議 事務局  
発行責任者：藤田 正雄

## 有機農業の意味

### ■生きもの同士の共存関係を活かす農業

耕したり、掘り起こしたり、農業では土の環境を乱すことが多くあります。肥料の投入も含め、土の中の生きものにとって農作業は過酷なものです。それでもなお生きものが棲みつき、それら同士の関係が築かれていきます。

有機農業はこの生きもの同士の共存・共生関係を重視し、田畑に多くの種類・量の生きものが暮らせる管理を行います。

生きもの同士の関係が豊かになると、病原菌・害虫といった言葉は意味をなさなくなります。食べる・食べられる・棲み分ける、などの関係が沢山できてくると、特定の生きものだけが爆発的に増えることはありません。たとえ病原菌や害虫がいても、大きな被害は出なくなります。

### ■健康な土から生まれる健康な作物

生きもの同士が豊かに共存する、この環境を人でいえば「健康」であり「抵抗力」がある状態、つまり土が健康だということです。これは作物にもいえます。健康な作物は、病原菌や害虫への抵抗性や回復力を持っているのです。

土の健康を支えるのは有機物です。多くの土の中の生きものが暮らしやすくするには、エネルギー源や棲みか

## 西村 和雄（有機農業技術会議 代表理事）

となる、いろいろな有機物を補給しなければなりません。またそれは巡り巡って作物の栄養源にもなります。これらは土の食べ物と言っていいでしょう。注意したいのは、土に必要な以上の有機物を与えないことです。土が食べ過ぎの状態になると、そこに棲む生きものは単純なものになってしまいます。

### ■地域資源を活かした持続可能な生産

土に与える有機物は、可能な限りその地域にある自然資源とし、自然界の大きな物質循環を手本にしなければなりません。生きものは太陽のエネルギーを利用して地域の資源を様々な形に変えて、また生きもの同士で養分などをやり取りしています。その仕組みをできるだけ壊さずに、作物を少しだけ有利にしてあげる管理が大切です。

また、農業以外の産業への配慮も必要です。山林の落ち葉も、家畜の糞も、食べ物の残りかすも、すべて田畑の資源になります。日本の伝統的な循環を新しい形で再構築していくことが求められています。

土の健康が作物を健康にし、健康に育った作物こそが人の健康を支えます。有機農業は、使う有機物の量や質に配慮し、地域の資源を活かしながら、田畑の生きものをバランスよく管理します。健康な状態を保つことでいろいろな問題を解決する「持続可能」な生産システムなのです。

## 有機栽培指針 病虫害5%

私が有機農業を始めたころは全くの手探り状態で、乾燥鶏フンをはじめ、生に近い牛フンや豚フン、米ヌカなどを直接畑に撒いて耕耘機で耕したり、堆肥づくりと称して放任堆肥や腐敗堆肥を造ったりしていました。当時、野菜は病虫害でいっぱいでしたが、農薬を使わないのだから仕方ないと諦めていました。しかし8年ぐらい経って、虫害で困り果てた時、ある方から「それは土が腐っているからだ」と言われハッとしました。土は生きていて、病気の土と健康な土があり、作物と土は密接につながっていることに気付いたのです。

土づくりのポイントは、養分供給とともにきれいな空気や水を含み、発酵型の土壌微生物相になることです。土を耕せば空気は簡単に含ませられますが、大雨が3回も降れば元通り。植物と微生物などが作り出す団粒が増

## 橋本 力男（堆肥・育土研究所）

えていくことが、きれいな水と空気を供給し続ける秘訣です。そして、その団粒を作る生きものを増やすのが、彼らの食事となる堆肥です。しかし畑の分解能力を超えた施用や、未熟な堆肥、腐った畜フン堆肥は土中で腐敗分解し、汚水を発生させてしまいます。つまり、完熟堆肥を適量施用することが、発酵型の土壌微生物相を増やし、それらが団粒構造を形成し、水を汚さない土を作るというわけです。

では、良質な完熟堆肥とはどのようなものでしょうか。それは、バランスの取れた材料で、しかも有害な化学物質を含まない材料を利用して、60～80℃で十分に発酵分解させたものです。病原菌を消滅する上でも60℃以上が最低でも1～2カ月以上続けるのが望ましいです。また、その発酵管理には、水分調整や、保温、通気性の確

保など、様々な配慮が必要となってきます。簡単な目安は悪臭しないこと、ハエが寄ってこないこと。ハエは悪い堆肥を教えてください先生です。

食べ物と健康の関係には、栄養バランスも関わってきます。人間も栄養失調になると免疫力が低下し病気に罹りやすくなりますが、作物も同様です。栄養不足も栄養過多も、偏食もいけません。そしてその必要とするバランスは作物ごとに異なります。すると当然、堆肥の原料も施用時期も場所も量も、作物ごとに異なってきます。

堆肥の材料を日本の食事に例えると、ごはんが[炭

素]、野菜、魚肉などおかすが[窒素]、味噌や漬物などが[微生物]であり、塩分が[ミネラル]のイメージです。その4つの成分に相当する材料を混合して色々な堆肥を造ります。それらを作物や土に合わせて施用することで育土技術が高まります。

奈良県五条市の故梁瀬義亮医師は、圃場の病害虫の被害率が5%以下という厳しい分岐点を、有機栽培指針の一つにあげられていました。私たちはこの観点に立って有機農業技術・・・田畑の健康管理をして行きたいものです。

## 2009年度の活動報告

2009年度は前年度に引き続き、公開セミナーや研究会を通して、各地の有機農業技術を紹介するとともに、有機農業推進団体支援事業（参入促進事業）の補助金の交付を受けて、有機農業推進団体の協力を得ながら、有機農業の実施者を増加させるための事業を進めました。

8月に熊本県阿蘇郡にて「第4回有機農業技術総合研究大会」（400名参加）、11月に高知県高知市にて「第6回有機農業公開セミナーin高知～有機農業の施設栽培を考える～」(260名)、2月に北海道網走郡にて「第7回有機農業公開セミナーin北海道・津別～安全・安心の大規模農業を考える～」(180名)を各地の有機農業推進団体の協力を得て開催しました。12月には「有機農業研究者会議2009」を茨城県つくば市にて開催し、農研機構、17県の農業試験場、3県の行政担当者、大学および民間研究者が120名集まりました。農研機構や地方自治体の試験研究機関で有機農業研究の取り組みが始まるなか、有機農業の実施事例や研究内容について研究者が一同に介して、情報交流を行うことができました。

公開セミナーなどの資料集はウェブサイト（[www.ofrc.net](http://www.ofrc.net)）にて公開するとともに、有料でお分けしています。

11月から3月にかけて、各地の有機農業推進団体および地方自治体が主催する行事に協力して、有機農業への新規および転換参入者を対象とした相談会・交流会を開催しました。イベントの詳細については、ポータルサイト「有機農業をはじめよう！」にて紹介しておりますので、ご参考ください。

また、全国農業会議所の全国新規就農相談センターが主催する「新・農業人フェア」（東京・大阪各3回、福岡・札幌各1回）にて有機農業相談コーナーを開設して、計約300人の新規参入希望者の相談に応じました。ここでの相談がきっかけとなり農業体験をする事例、就農に結びつく事例もありました。また、有機農業相談コーナーには、新規就農者が堆肥づくり、土づくりなどの栽培技術について相談に訪れるケースもありました。

2月に今年度初めての取り組みとして、特別講座「堆肥づくり・土づくりから育苗まで」を3泊4日で開催しました。参加者をウェブ上で募集したところ、2週間で定員を越えキャンセル待ちが出る状況でした。参加者は有機農業実施者、新規参入希望者、堆肥業者、行政関係者などでした。有機農業の基本である堆肥づくりや育苗・踏み温床の作成方法などについて、講義と実習を通して知的理解と感覚的理解を満たすことができました。

3月には有機農業を志す新規就農者向けのガイドブック「有機農業をはじめよう！」を作成しました（A5版、32ページ）。有機農業関係機関や団体に配布したところ、好評を得て関連団体などへの紹介のために更なる注文をいただいています。冊子の注文は有機農業技術会議事務局までお願いいたします。

有機農業技術会議では、ウェブサイトおよびポータルサイト「有機農業をはじめよう！」（[www.yukihajimeru.or.jp](http://www.yukihajimeru.or.jp)）を通じて、有機農業関連情報を逐次お知らせするとともに、有機農業の研修先や有機農業を実施している地域のさまざまな事例を紹介していきます。

### 賛助会員募集のご案内

有機農業技術会議では、当会議の趣旨に賛同してくださる方を対象に賛助会員制度を設けております。会員の方々へは、電子メールによる機関誌や研究会などのご案内、研究会・研修会などへの割引参加、総合研究会への参加、ご意見・ご要望の反映などのサービスもあります。この機会に是非お申込みください。

お申し込みは技術会議事務局にご連絡ください。また当会議ウェブサイト[www.ofrc.net](http://www.ofrc.net)のホーム→入会案内からも用紙がダウンロードできます。皆様のご入会をお待ちしております。

#### NPO法人

有機農業技術会議事務局

〒390-1401

長野県松本市波田5632

（財）自然農法国際研究

開発センター

農業試験場 内

FAX:0263-92-6622

E-mail: [office@ofrc.net](mailto:office@ofrc.net)

Website: [www.ofrc.net](http://www.ofrc.net)